個人情報とは

世田谷少年サッカー連盟
個人情報保護管理者

【世田谷少年サッカー連盟で個人情報保護が何故必要か】

個人情報保護法の創設当初は、5,000件超の個人情報を取り扱う集団だけが対象とされていました。

この件数要件は**2017年に施行された改正によりすでに撤廃**されており、**1件でも個人情報を取り扱う**集団はすべて適用対象となったからです。

※本来は皆様のクラブも同様の扱いとなります。

4種登録しているクラブ（チーム）は東京都サッカー連盟・東京都少年サッカー連盟・第5ブロックに所属していますので、当然「個人情報保護法」の傘下にいます。

国の行政機関や独立行政法人、地方公共団体等はそれぞれ個人情報保護法とは異なるそれぞれ別の個人情報に関する規律が適用されていましたが、2021年5月に公布された「デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律」により、それらの法律等が廃止され、2022年4月には国の行政機関等について、2023年春には地方公共団体等についても、改定後の個人情報保護法が一元的に適用されることが決まりました。

これを受け、世田谷少年サッカー連盟も2024年度より個人情報保護の管理体制を本格的に確立する事になりました。

【個人情報の定義】

個人情報とは、どのようなものを指すのでしょうか？

※条文による定義です。（個人情報保護法2条1項）

この法律において「個人情報」とは、生存する個人に関する情報であつて、次のいずれかに該当するものを言います。

- ・当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述（文書、電磁的記録（電磁的方式で作られる記録を言います。以下同じ。）に記載された特定の個人を識別することができるものです。（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含みます。）

【具体例】

個人情報に該当するものについての具体例です。

※なお、新聞やインターネット上などで公知となっている情報であるからといって、これを理由に個人情報から外れるわけではありません。*1

「公知である」からといって個人情報でなくなるわけではないため、誤解のないよう注意しましょう。

*1:「個人情報保護委員会」新聞やインターネットなどで既に公表されている個人情報は、個人情報保護法で保護されるのです。

・氏名

氏名は、それだけで個人情報に該当します。

※なお、同姓同名の人がいる場合、厳密には個人が特定できない場合もあるでしょう。

しかし、個人情報保護委員会のFAQによると、同姓同名がいる場合であっても氏名は社会通念上、個人情報に該当するとされています。*2

*2:「個人情報保護委員会」ガイドライン（通則編）では、氏名のみでも個人情報に該当するとされていますが、同姓同名の人もあり、他の情報がなく氏名だけのデータでも個人情報といえます。

・住所、電話番号、生年月日など

住所や電話番号、生年月日、性別、クレジットカード番号、口座番号などは、それ単体では個人を識別できないことが多く、個人情報とはならないことが一般的です。

ただし、これらを他の情報と組み合わせることで特定個人が識別できる場合は、個人情報に該当します。

実際に、電話番号などを単体で保管しているケースは稀であり、氏名などと併せて保管していることがほとんどでしょう。

このような場合は、電話番号も個人情報にあたります。

・メールアドレス

メールアドレスは、アドレス自体から個人を識別できない場合は、電話番号などと同様に扱われます。

一方、個人情報保護法ガイドラインに記載のある「kojin_ichiro@example.com」のように、アドレス単体で「example社のコジンイチロウ氏」のメールアドレスであることがわかる場合もあるでしょう。

このような場合は、氏名と同じくメールアドレスがそれ単体で個人情報となり得ます。

【保管期間】

個人情報を提供した場合**原則3年の保管義務**があります。

（個人情報保護法 25条2項、施行規則14条3号）

情報の種類・用途により5年、7年の保管義務もあります。

一般的に**辞めた後5年（当面の間3年）経過するまで保管義務**があります。

【個人情報保護教育】

今後の世田谷少年サッカー連盟は教育として下記を実施予定です。

・2024年度

連盟役員を対象に実施します。

「個人情報保護法ハンドブック」を全役員に配布して勉強をする。

その結果の判断として「個人情報保護理解度チェックシート」で理解度を確認する。

理解度により別途教育が必要な場合は「個人情報保護法」の講習会を検討・実施する。

・2025年度

2024年度の連盟役員の教育を考慮してクラブ理事様対象の教育を検討・実施します。

以上